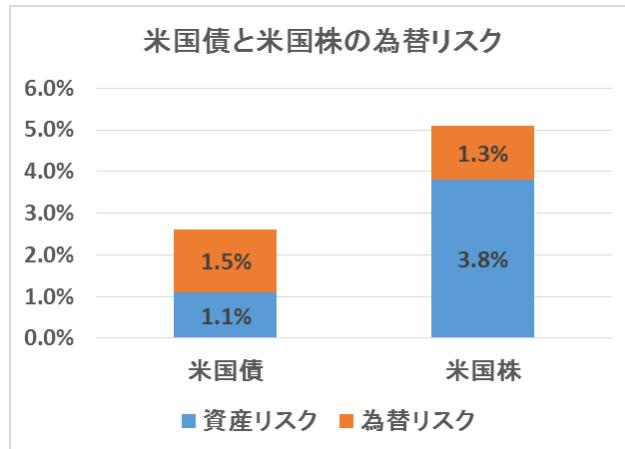


### ATTENTION

#### 外債投資は、外国株投資より為替リスクが大きい！



米国債	リスク	米国株	リスク
米国債(A)	1.1%	米国株(A)	3.8%
円/ドル	2.8%	円/ドル	2.8%
円建て米国債(B)	2.6%	円建て米国株(B)	5.1%
為替増加分(B-A)	1.5%	為替増加分(B-A)	1.3%

(2003/11～2016/2月次)

このグラフと表は、米国債(米国総合債券指数)と米国株(NYダウ平均)に、円でおよそ12年間投資した場合の資産と為替のリスクを見たものです。債券、株式ともに本来の為替リスク(2.8%)が、債券は1.5%に、株式は1.3%と大幅に減っているのがわかります。また外債投資に占める為替リスクは、債券自体より大幅に高く、外国株投資に占める為替リスクは、株式自体より大幅に低いということです。さらに、外債自体の為替リスクが外国株より大きくなっています。ここで導かれるのが、外債投資は外国株投資より為替リスクが高いということです。これらは外貨に投資する場合、外国株に投資することの優位性を示すものです。為替レートは2国間のインフレ率の差によって決まります。インフレ率が上がる(通貨安になる)と、投資資金は株や不動産など実物資産に向かい、企業業績は商品・サービスの値上げで上向き、通貨安で海外事業の収益が上がり、株価が上昇し、通貨安の為替リスクを相殺する形になります。外国株投資の為替リスクは、数十年の間にはなくなるとの説まであります。一方外債はインフレ率が上がる(通貨安になる)と、金利は上がり債券価格は下がる傾向となり、通貨安の為替リスクの影響を消しにくいのです。

### OPINION

#### 消費税増税延期は将来世代へ痛みの先送り

ここに来て、来年の消費税増税を延期しようという動きが強くなっています。政府はノーベル経済学賞受賞の学者を招いてまで、消費税増税の環境づくりをしている感があります。安倍首相の消費税増税のトーンは、前回衆議院解散時の会見での「次回は必ず増税を実施する」から最近の「経済が失速しては元も子もない」と大幅に下がっています。早くも一部報道では「安倍首相、消費増税先送り検討、経済減速に配慮」とまで書いています。

しかしこれで本当にいいのでしょうか。自民党は野党のふがいなさもあり、政権基盤が安定し税収も順調ということで、かぶとの緒が緩んだ状態です。財政再建はどこへやら、参議院選挙にむけ景気対策に勤しみ、年金改革は及び腰、規制改革は遠のき、経済は日銀の金融政策頼み。痛みは先送り、今がよければいいという姿勢をずっと続けてきたのが政治家や役人ですが、これは国の将来にとって重大な過ちを犯していることに他なりません。「今がよければ」ということは、平たく言えば、高齢者に恩恵を厚く、将来世代に痛みを先送りということです。さらにいえば、既得権者に厚く、経済に新風を入れようとする世代を妨げる動きにもつながります。米国は超党派での歳出削減策や税収増から、財政再建は急速に進んでいます。これでは両国の格差はますます広がるばかりです。日本が、国全体に規律(Discipline)を持たせることが、最も必要な時期にあることは、論を待ちません。

### MARKET

	(3月末)	(前月末比)
日経平均	16,758.67円	+731.91円 (+1.0%)
NYダウ	17,685.09ドル	+1168.59ドル (+7.1%)
米ドル	112.56円	-0.19円 (-0.2%)

### 今月の言葉：

資本は、節約や慎慮によって増加し、浪費と不始末によって減少する。

-アダム・スミス「国富論」第2篇第3章

## マイナス金利時代をいかに見るべきか。

マイナス金利、マイナス金利とかまびすしいこの頃です。預金でも、1年定期の利率は0.01%。たとえ1000万円預金しても1年の利息は1000円。振込手数料であつという間にマイナスです。銀行もこの頃は預金してくれといわなくなっているようです。年率12%定期預金と目を引く新聞広告が出ていましたが、脇に小さく1ヶ月定期の記載。こういう「ちまちま」したところで右往左往すると、大局を見失ってしまいます。

長期金利の下げは短期金利よりもっとインパクトがあります。10年以下満期の国債の金利がなんと軒並み「マイナス金利」になってしまったのです。これに驚いたのは生命保険会社と銀行です。終身保険など長期の貯蓄性保険では国債による運用が主力だったのが、その国債がマイナス金利になったのだからたまりません。大手生保は軒並み予定利回り(運用保証利回り)を0.5%以下に下げたのです。ある大手生保の一時払い終身保険はこれまで5年解約で返戻金が払い込み保険料を上回ったのが、9年に延びるというのです。そもそもここで冷静に考えましょう。たとえば50歳男性が一時払い終身保険に加入し、平均余命32年の82歳まで0.5%固定で運用することの是非です。これから政府、日銀が懸命にインフレにしようとする中、30年以上に渡って0.5%利回りに固定してしま

うことは、「空恐ろしい」ことです。そもそもマイナス金利時代の一時払い終身保険など長期貯蓄性の保険は、これからは商品として成立しないと考えるべきでしょう。こういうことをいう人は、保険会社の影響力が大きいのか、回りに知人・友人が多いためか、あまり見かけません。これから保険で利用すべきは、定期保険や収入保障保険などの掛け捨て保険のみといえるでしょう。

さてマイナス金利は悪いことばかりではありません。マイナス金利になって最大のメリットは借入金利が下がったことです。とはいながらTV、新聞で洪水のように大量宣伝している銀行のカードローンや旧サラ金ローンの金利は、奇妙なことにまだ下がったという話は聞きません。ここに来て大きく下がったのは住宅ローンです。最近の日経新聞によりますと、大手銀行で2年ほど前設定した3,000万円35年2.25%金利固定のローンを、現在1.47%に借り替えると返済負担が423万円減るというのです。数十万円の諸費用を考えても十分利用価値があります。

最後にマイナス金利時代の最も大事なことをお伝えしましょう。それはますますしっかりと資産運用する必要性が増したということです。それを行うか否かは自分次第。これから的人生を豊かにできるか否かは、ここにかかっているといって言い過ぎではありません。

### SEMINAR

## 第56回『退職金や金融資産をしっかり運用するためのセミナー』 -こうすればしっかりお金を増やすことができる-

年金支給開始の先送り、支給額の減額が現実になります。一方で手数料収入を取り込もうとリスクの高い金融商品を売り込む金融機関の営業活動はさらに激しくなっています。リスクの高い商品を勧められ、取り返しのつかない痛手を被ることも珍しくありません。自分年金を間違いなく作る必要性はますます高まっています。

- 國際分散投資のメリットと必要性
- 本当に正しい資産運用法の実践法
- お金に困らない老後の安心をいかに確保するか
- よい金融商品はどういうものか
- 安心してお金の相談をできるところはどこか
- NISAの賢い活用法
- 相続税アップにどう対応すべき

詳細はホームページをご覧ください。

30年以上の経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持つ、金融機関から完全独立の資産運用アドバイザー尾藤 峰男が「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します！若い人も中高年の人もぜひお越しください！

日時：2016年4月24日(日)15:00～17:00

場所：TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームB(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml> (最寄り駅:有楽町・日比谷駅)

講師：尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

参加費：3,000円(当日支払い)

申込み方法：メールまたは電話にて「4月24日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

Eメール：info@bfsc.jp Tel: 03-6721-8386

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス株式会社  
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386  
携帯：070-5567-3311

FAX: 050-3156-1072  
電子メール：info@bfsc.jp